

令和5年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業	698	935	△237				698	
トータルコスト	7,715千円（前年度 8,032千円） [正職員：0.9人]							
主な業務内容	高校生の未来につながる読書推進、学校図書館活用教育普及講座、学校図書館職員研修、その他管理事務							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

就学前から高校まで一貫した学校図書館活用教育を目指す「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」（改訂版）を基に、これまでに作成した小学校・中学校・高等学校の学校図書館活用年間計画作成のための資料とあわせて県内への普及に努める。

また、新学習指導要領とGIGAスクール構想に対応した学校図書館の活用をより一層推進するため、学校図書館関係職員の能力向上に資する研修を実施する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
学校図書館活用教育普及講座	令和3年度改訂版「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」を基に学校図書館活用教育を普及・推進するため、学校図書館関係者のニーズの高いテーマで研修を開催する。	325
学校司書のためのICTスキルアップ講座	小・中・義務教育学校・高校・特別支援学校に勤務する学校司書のICT機器を使用した活用スキルを向上させる研修を開催する。	85
学校図書館司書研修会	昨今の教育的課題を踏まえた学校図書館の利活用と推進を目指し、県内高等学校・特別支援学校図書館関係者だけでなく、広く教職員へ参加を呼び掛ける研修会を年1回開催する。	154
学校図書館司書実務研修会	県内高等学校司書、特別支援学校司書を対象に学校図書館の運営や学校司書の年間業務について先輩司書主任から学ぶ年間2回の研修会を実施する。	50
全国高等学校ビブリオバトル鳥取県大会	全国高等学校ビブリオバトル（※）大会の県予選として、代表者1名を選考する大会を開催する。 ※ビブリオバトル：本の魅力を紹介し合い、もっとも読みたいと思う本を投票で決める書評ゲームのこと	51
学校図書館支援員派遣・訪問事業	市町村立図書館、教育委員会、県立学校等の要望に応じて、県立図書館職員が各自治体や学校へ出向いて研修を実施する。	33
合計		698

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

教育課程に寄与する学校図書館を目標に、就学前から高校まで一貫した学校図書館活用教育を目指す「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」（改訂版）や新学習指導要領における学校図書館の役割の普及啓発を行う。

<取組状況>

- 学校図書館活用教育普及講座（オンライン開催）（令和4年度） 総参加者73名
- 学校司書のためのICTスキルアップ研修（東中西部開催）（令和4年度） 総参加者126名
- 学校司書実務研修会（令和4年度） 参加者13名

<改善点>

学校図書館関係者だけでなく、広く教職員の参加を呼び掛けていく必要がある。

令和5年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
デジタル化時代の知の拠点づくり事業	25,415	24,878	537				25,415	
トータルコスト	30,873千円（前年度 30,398千円）〔正職員：0.7人〕							
主な業務内容	資料のデジタル化の推進、デジタルアーカイブシステムおよび資料デジタル化の効果の広報、デジタルアーカイブシステムの運用・保守							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

利用者の資料利用の利便性を向上させ、地域独自の歴史や文化に関する資料を容易に利用できる環境を整え、次世代に伝え残していくため、図書館の貴重な資料を電子化し広く公開する。そのための手法として、博物館、公文書館、埋蔵文化財センターと共同で構築したシステムの利用促進を図る。
また、非来館・非接触型及び図書館の利用にあたって障がいのある方へのサービスの一環として電子書籍を導入し、県民へ広く情報収集の機会を提供する。

2 主な事業内容

(単位：千円)

区分	内容	予算額
(新) 電子図書館フォーラムの開催	電子書籍の利用促進のため、有識者を招いたフォーラムを開催する。	329
(新) 資料のデジタル化研修	市町村の文化財・観光等の担当者向けに資料の撮影方法等の研修を実施する。	208
資料のデジタル化の推進	所蔵している郷土資料のデジタル化を進める。	2,210
「とっとりデジタルコレクション」及び資料デジタル化の効果の広報	県立博物館、県立公文書館、県立埋蔵文化財センター、県立図書館の4館協働でイベントを開催する。	151
スキルアップのための研修講座の受講	デジタルアーキビスト(※)、文書情報管理士等の資格取得に係る研修受講経費等	329
「とっとりデジタルコレクション」の運用・保守	「とっとりデジタルコレクション」の賃貸借経費等	22,188
合計		25,415

※デジタルアーキビスト：文化・産業資源等に対して、著作権・プライバシー等の理解ならびにデジタル化の知識と技能を持ち、収集・管理・保護・活用・創造を担当できる人材のこと。

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

地域の歴史や文化に関する資料を容易に利用できる環境を整え次世代に伝え残していくため、図書館の貴重な資料のデジタル化を推進するとともに、望ましいデジタルアーカイブシステムを構築する。

<取組状況・改善点>

- 平成15年度～17年度：絵図のデジタル化
利用希望の多かった38種、89点の絵図を対象に所蔵絵図のデジタル化に取り組み、絵図の画像をホームページで公開した。
- 平成29年度：「総合的なデジタル化計画」の作成、LAN環境の整備、デジタル化計画を総合的に運営管理できる職員育成のための研修派遣を実施
- 平成30年度～令和4年度：デジタル化予定資料の中から優先順位を考慮し、書画等のデジタル化を実施
- 令和3年3月の公開以降、利用促進を図るため、関係機関向けや一般向けの講座を開催
- 令和3年9月 ジャパンサーチ(※)とのデータ連携
※ジャパンサーチ：国内の文化施設等が所蔵する書籍、文化財、メディア芸術などのコンテンツをまとめて検索・閲覧できるシステムのこと。

令和5年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
仕事とくらしに役立つ図書館推進事業	8,130	8,195	△65				8,130	
トータルコスト	29,962千円（前年度 30,276千円）〔正職員：2.8人〕							
主な業務内容	高齢者・健康情報・法律情報等のサービス事業、大学等との各種事業、子育て支援等、地域振興等新規事業開拓、図書館活用普及推進活動促進他対外連絡調整、ビジネス支援関係事業、県内産業支援イベントでの出前図書館							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

地域の情報拠点として、県民の情報要求に応え、仕事とくらしに関わる県民と地域の課題解決に向け必要な情報を提供するなど、一層の資料充実や機能向上を図る。

(1)ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの推進

デジタルアーカイブの特性であるアクセシビリティ（近づきやすさ）、ユーザビリティ（利用しやすさ）を活かしつつ、障がい者や高齢者等、図書館利用に困難のある方や情報の獲得に困難のある方に対するサービスをより一層充実する。

(2)豊かなくらしへの貢献

ライフステージの様々な場面で必要となる資料を収集し、県民の幅広いニーズに対応する。

(3)地域経済の活性化と地域の自立への貢献

県内産業を支援する情報提供機能を強化し、仕事に役立つサービスを提供するとともに、地域づくりを進める団体等と連携しながら地域活性化に貢献する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
図書館利用に障がいのある人・高齢者に配慮した図書館サービスの充実	令和3年3月に策定した鳥取県視覚障がい者等の整備の推進に関する計画に基づき、引き続き視覚障がい者等に対するサービス提供のための環境整備を推進する。	1,601
くらしに役立つ医療・健康情報サービス普及・啓発事業	信頼できる医療・健康情報の見分け方や医療・健康情報の入手に有効な図書館の活用方法を周知する。	556
図書館で「すくすく子育て」応援事業	誰にでもやさしい子育ての環境づくりを応援するために、関係部局と連携し、託児サービスの実施と普及や「読みメン」の普及を図る。	480
地域を元気にするビジネス支援事業	公共図書館のビジネス支援機能の浸透を図るため、セミナーの開催や他団体が主催する研修会等の機会を活用して、幅広い層への浸透を図る。県立図書館の専門資料や調査機能を活用し、県内全域でのビジネス支援サービスの定着、利用者の掘り起こしを行う。令和5年度は重点的に、新規就農を考えている方、農業を営んでいる方の課題解決に向けた情報提供・相談機能の強化を図っていく。	656
商用データベースの提供	利用者の高度化・多様化する情報要求に応えるため、商用データベースを導入する。また、市町村立図書館と連携し、データベースの利用促進を図る。	3,801
スキルアップのための専門分野研修の受講	文部科学省、国立国会図書館、日本図書館協会、その他各種団体の開催する研修へ積極的に参加し、図書館職員としての資質向上を目指す。	1,036
合計		8,130

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

県民に役立つ地域に貢献する図書館を目指し、仕事とくらしに役立つ図書館、人の成長・学びを支える図書館、鳥取県の文化を育み世界に発信する図書館、知の拠点としての図書館としての機能を充実する。

<取組状況・改善点>

- 新型コロナウイルスによる業界動向や市場動向の把握に役立つ専門書等の配架、ビジネス情報が検索できる様々な商用データベースの整備を行い、ビジネスを支援した。
- 「読書バリアフリーフォーラム」、「闘病記文庫開設15周年記念フォーラム」などを開催した。
- ケーブルテレビを利用して音読教室の普及を図った。

令和5年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
人の成長・学びを支える図書館推進事業	330	614	△284				330	
トータルコスト	15,144千円（前年度 15,597千円） [正職員：1.9人]							
主な業務内容	子どもと本をつなぐ講座、児童図書サービス検討その他管理事務、市町村図書館児童図書部門訪問相談・電話相談・実務担当者会、図書館を居場所にキャンペーン・街中ワークショップ、サポートの必要な家庭の現在を知るための講座・ボランティア機会の提供							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

経済的に困窮する家庭や、ひとり親家庭等（以下「サポートの必要な家庭」という。）で育つ子どもたちに、図書館が居場所であることを周知する。
子どもの読書推進を図るため、子どもたちに日常接する職員（公共図書館職員、学校関係職員、幼稚園教諭、保育士等）の養成や、市町村立図書館児童図書部門の支援を行う。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
サポートの必要な家庭応援・居場所としての図書館活用推進	支援機関や県内市町村立図書館との連携を進めるとともに、子どもたちを取り巻く現状を周知するなどサポートの必要な家庭を、図書館の「資料」や「場」の活用を通じて支援する。	97
豊かな心をはぐくむ子どもの読書応援事業	子どもの読書推進を図るため、市町村立図書館職員、学校図書館関係者等、子どもと子どもの本に関わる人々が、継続的に研修できる機会を提供し、資質や技能の向上を図ることで、県内各図書館における児童サービスのさらなる充実を目指す。	233
合計		330

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

- 子どもたちの現状を知り、サポートの必要な家庭で育つ子どもたちに図書館が居場所であることを周知する。
- 子どもたちに日常接する職員（公共図書館職員、学校関係職員、幼稚園教諭、保育士等）のスキルアップを目的とした研修を行い、子どもたちの読書意欲向上を図る。

<取組状況・改善点>

- 平成29年度から「サポートの必要な家庭」応援事業を開始し、市町村立図書館や支援機関、学校図書館等との連携が進み、図書館が「居場所」になれるという考えが図書館員や支援者に浸透しつつある。「鳥取県子どもの貧困対策推進計画（第二期計画）」には具体的な施策として「図書館における居場所づくりの推進」が挙げられており、今後も継続して取り組む必要がある。
- 平成30年度から開催している「子どもと本をつなぐ講座」や市町村立図書館実務担当者会の実施により、市町村立図書館職員、学校図書館関係職員、幼児教育関係者の資質向上と、子ども読書支援者の連携に繋がっている。

令和5年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
郷土情報発信事業	2,346	2,726	△380			<財産収入> -60	2,286	
トータルコスト	27,052千円（前年度 27,651千円） [正職員：2.8人、会計年度任用職員：1人]							
主な業務内容	ふるさとの歴史再発見事業（資料展、郷土文化講演会等）、小冊子「郷土文学者シリーズ」の広報、地域資料データベース等サービス事業、資料調査・研究・収集等、郷土資料室でのサービス提供、その他管理事務							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

- 郷土資料（地域資料）を収集・保存するとともに、資料の利用促進を図る。紙媒体の収集に加え、郷土関係資料のデータベース化を推進し、後世に郷土資料を継承するための保存・活用を進める。
- 鳥取県出身の文学者及び鳥取県の自然や文化について興味、関心を喚起する資料展や講演会を開催する。県内の関係機関や市町村立図書館、学校図書館と連携し、広く県民へ情報を発信する。

主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
ふるさとの歴史再発見事業	鳥取県に関する資料・情報を収集し、県民の興味・関心を喚起するための事業を開催する。	1,052
郷土文学者情報発信事業	鳥取の文学に触れる機会を提供する講座を開催する。 ・鳥取文学講座「古文書講座」 ・とっとりデジタルコレクションで公開している文学等を活用し、鳥取県の文学等へ触れる機会を提供と、くずし字の翻刻に取り組むための、図書館員向けと一般向けの講座	112
「文字・活字文化の日」記念事業	「ブックインとっとり」事業（主催：ブックインとっとり実行委員会）とタイアップし、「文字・活字文化の日」を記念し、地方出版文化功労賞受賞者による講演会を開催する。	73
地域資料データベース等サービス事業	過去の出来事を調査する際に有用な地元新聞記事を検索・閲覧可能な環境を整備するため、日本海新聞記事検索サービス及びマイクロフィルム閲覧サービスを提供する。	1,109
合計		2,346

3 事業目標・取組状況

<事業目標>

- 郷土資料（地域資料）の収集を進めるとともに、資料の利用促進を図る。後世に郷土資料を継承するための保存に努め、情報発信等により活用を進める。
- 鳥取県出身の文学者及び鳥取県の自然や文化について興味、関心を喚起する資料展や講演会を開催し、広く県民へ情報を発信する。
- 様々な機会を捉え、郷土への愛着や理解を深める。
- 「文字・活字文化」の振興に寄与する。

<取組状況・改善点>

- 夏休みの子どもたちの調べ学習の参考に、新収蔵資料である「解体新書」の企画展示を開催した。
- 鳥取県を発信する企画展示などを、社会的な課題を捉えて実施した。
- 鳥取大学など公的機関、県民活動による団体との連携により、地域に関わる歴史、文化事象を発信した。
- 現在30テーマある調べ方案内「郷土学習ガイド」の内容改訂を行い、最新情報を加え公開した。図書館利用者のほか、学校の調べ学習や夏休みの自由研究等で利用されている。

令和5年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
市町村図書館等協力支援事業	9,924	9,026	898				9,924	
トータルコスト	35,165千円（前年度 34,429千円）〔正職員：2.5人、会計年度任用職員：2人〕							
主な業務内容	ジュニア司書養成研修、協力図書館の貸出・配送、リクエスト図書館の配送、市町村・高等学校・特別支援学校図書館等巡回相談、図書館職員研修、その他管理事務							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

- 県民の情報保障のため、全県の図書館や関係機関に対して迅速に資料・情報の支援を行う等、県内図書館ネットワークの要としての機能を果たす。
- 地域の課題やニーズに対応するために図書館職員の研修を実施し、全県の図書館サービス向上を図る。
- コロナ禍での来館者数減少からの回復を図るため、県内市町村立図書館と協働でキャンペーンを実施する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
(新) 図書館へ行こうキャンペーン	図書館の来館者がコロナ禍により減少しており、withコロナに向けた図書館利用促進キャンペーンを県内市町村立図書館等と協働で実施する。	1,010
図書館業務専門講座	社会の急激な変化に対応して多様化・高度化している県民の図書館に対するニーズに応じていくため、市町村立図書館職員の資質向上を目的とした研修を年4回実施する。	389
県内図書館の課題解決に向けた支援	県立図書館職員が市町村立図書館を訪問し、個別相談・要望等、意見・情報交換を行い、業務改善を図る。また、県立図書館職員が講師として市町村立図書館等に出向き、希望するテーマに沿った研修を実施する。	284
県立図書館資料等の配送・回収事業	県内の図書館、病院図書室、試験研究機関等、資料を必要とする県民・機関へ迅速な配送を実施する。	8,241
合計		9,924

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

- 県内市町村立図書館や県立図書館における利用者がコロナ禍の影響により減少しているため、図書館の資料や場としての利用の機運を高めるための取組を行う。
- 市町村立図書館の利用促進とスキルアップ
日頃から県内の市町村立図書館の動向や現状を把握し、図書館間で最新情報を共有する。職員のスキルアップのための研修の機会を提供する。
- 県民への迅速な資料提供
県内どこからでも必要な資料が迅速に利用できるよう搬送システムを確保する。

<取組状況・改善点>

- 図書館業務専門講座
社会情勢の変化や県内図書館職員のニーズに応じて、年4回講座を実施している。市町村立図書館の職員の情報交換の場にもなっている。
- 訪問相談・研修講師派遣事業
市町村立図書館、高等学校・特別支援学校図書館、大学図書館、県立病院図書室・試験研究機関・協力機関へ年間2回以上訪問することを目標に実施している。
- 県立図書館資料等の配送・回収事業
県内各館からのリクエスト本を2日以内に届ける宅配システムと、隔週で県立図書館職員が県内各館を巡回し、大量の資料や展示物の配送及び回収を行う搬送システムを運用している。

令和5年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
図書館国際交流事業	4,952	4,912	40				4,952	
トータルコスト	16,938千円（前年度 16,909千円）〔正職員：0.8人、会計年度任用職員：2人〕							
主な業務内容	環日本海諸国の図書館との交流（図書交換等）、国際交流ライブラリー講演会等開催、運営企画その他管理事務							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明

1. 事業の目的、概要

鳥取県が進めている環日本海諸国との交流や、さらなるグローバル化に伴う幅広い国際交流や国際理解の促進を支援するために、環日本海交流室・国際交流ライブラリーの機能を生かし、広く海外情報を収集・提供することに努める。

また、英語教育や国際理解教育の推進等、世界で活躍する人材育成につながる情報収集・提供に努める。

主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
図書交換事業	図書交換等に関する協定を結んでいる環日本海諸国の図書館と図書交換を行い、交流を深める。	1,132
海外に関する資料収集整備・提供の促進	環日本海諸国をはじめとする海外に関する資料の収集・整備に努め、県民及び県内在住外国人への資料・情報提供の充実を図る。	3,351
海外に関する情報発信	国際交流ライブラリー講演会を開催する。	369
語学・歴史・文化等学習支援事業	多文化を知るイベントを開催し、県民の異文化理解を支援する。	100
環日本海交流室担当職員の配置	環日本海交流室室長を配置する。	—
合計		4,952

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

県の重要施策である環日本海諸国との交流を支援・促進するため、環日本海諸国の原書やその地域について記述された日本語図書の収集・提供を行うとともに、様々な事業を通じて、環日本海諸国との交流を促進する。

また、英語教育や国際理解教育を推進し、多文化理解や世界で活躍する人材育成につながるよう、積極的な情報収集とサービスの提供を行う。

<取組状況>

平成29年10月：鳥取県立図書館職員（4名）が河北省図書館を視察訪問、協定修正の協議

令和3年12月：モンゴル中央県D. ナツァグドルジ記念公共図書館と図書交換に関する協定締結

<改善点>

○国際交流ライブラリー講演会の開催を主会場のみならず、サテライト会場にも配信し県民が近くの会場で視聴できるようにした。また、自宅等でも視聴できるようオンライン配信も行った。

○令和3年7月には、「多文化を知るイベント『世界は広いぞ！知ろう！世界のあれこれ』」と題して、子どもも大人も日本人も外国人も一緒に、いろんな国の「あいさつ」「文字」「ことば」に触れるイベントを行った。また、令和4年8月には、このイベントを市町村立図書館で開催した。

○幼少期から英語に親しんでもらえるよう英語多読用図書を整備しており、専用の書架を購入し、蔵書を充実させた。また、1階閲覧室や児童図書コーナーで展示し、利用を促進した。

令和5年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
図書館運営費	461,842	218,011	243,831		<111,000> 222,000	<基金繰入金 5,369 雑入370> 5,739	234,103	県費負担 345,103
トータルコスト	590,384千円（前年度 347,392千円）【正職員：12.8人、会計年度任用職員：10人】							
主な業務内容	館内でのサービス提供、施設・設備維持管理、資料購入・整備、その他管理事務							
工程表の政策内容	生涯学習の環境整備と活動支援							

事業内容の説明 【「鳥取県こども未来基金」充当事業】

1 事業の目的、概要

県立図書館の管理運営、資料整備を行う。

また、外部委員から図書館運営について意見をもらう図書館協議会を開催する。

(単位：千円)

区分	内容	予算額
図書館管理運営費	・図書館協議会の開催 ・図書館業務の管理運営等 ・図書館システムの管理運営等 ・施設設備の維持管理等	115,058
資料購入整理費	・図書館資料整備 ・逐次刊行物資料整備 ・資料整理経費等	99,598
空調熱源改修工事	・老朽化した空調用熱源設備の更新	247,186
	合計	461,842

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

多様化、高度化する県民の要望に的確に対応するため、あらゆる分野の最新資料、専門的な資料、郷土資料、市町村や学校を支援する資料等、図書資料の充実を図る。

<取組状況・改善点>

- 認知症や引きこもり関連の資料等を充実させ、関係者や関心のある県民に多く利用されている。
- 図書館がビジネス支援をはじめ、資料相談の場として活用されている。
- 多様化、高度化する県民の要求に応えるために、専門家の助言を参考にしながら、最新の資料を幅広く収集する必要がある。また、郷土資料は、出版情報に目配りし、網羅的に収集に努める必要がある。

(注) 起債欄の<>書きは交付税措置額を除いた額である。
県費負担額は、起債欄の<>書きの金額に一般財源の金額を加算した額である。